

# 分科会方式かプロジェクトチーム方式か？

## ～それぞれのメリットを検討～

---

### 分科会方式のメリット

- ・ 1グループ当たりの人数が多くなる 話し合いが活発になる
- ・ 気心の知れたメンバーなので“ ツーカー ”で話し合える
- ・ 良い人間関係ができているので気楽に取り組める（人数が多いので責任が軽いということも）
- ・ 日程調整がしやすい（会議の単位が、分科会なら6、プロジェクトならもっと多いので）
- ・ 今までの議論が継続する 具体化しやすい・より深められる
- ・ 提案から実現まで一貫性がある 責任を全うできる
- ・ 思い入れをもって取り組める
  - ・ 思い入れのレベルが違う新メンバーと上手くやっていけるのか？
- ・ 他分科会から意見をもらえれば現状どおりでよい
- ・ 役所の縦割り行政を打破するのが分科会活動

### 重点プロジェクト方式のメリット

- ・ テーマが絞られるので関心が高まる
- ・ 参加率は上がる（人数が少ないので責任感がでてくる）
- ・ 他のグループとのテーマの重なりがなくなる
- ・ 新メンバーが入りやすい（市民） 新しい意見が入る
- ・ 専門的に集中して取り組める
- ・ プロジェクトを整理・統合しやすい 実効性が上がる
- ・ メンバーが入れ替わることでリフレッシュする
- ・ 他の分科会だった人と意見が共有できる
- ・ 分科会で煮詰まっていた議論が活性化する
- ・ 新しいテーマで活動できる
- ・ 横断的に進めることができる
- ・ 机上の知識の偏重傾向が見直せる
- ・ 日進全体からの視点が持てる（違う角度から見られる）
- ・ 分科会方式のメリットはプロジェクト方式でも達成できる
- ・ プロジェクトを統合し大きくする
- ・ やりたいことがやれる

### 折衷方式のメリット

- ・ プロジェクトによっては分科会で取り組んだ方が便利なものもある。横断的なものだけプロジェクト方式を採用 精鋭が集めやすい
- ・ 既存グループとの連携の窓口として分科会を残す（新メンバーはプロジェクトで募る）
- ・ 計画が出来上がってから、プロジェクトが一過性のものに終わらせないように事務局的

な役割を持った組織が必要

運営委員会で考えた平成 15 年度の活動方針、次回全体会での参加プロジェクトの決め方を事務局より説明した後、意見交換しました（まとめ）

- ・シールを貼るくらいで今年度取り組んでいくプロジェクトを決めてしまっているのか？ プロジェクト方式でやるということ考えたことがなかったので、考えがまとまらない。
- ・時間的な制約があり、どこまで責任を持ってやっていけるか不安（負担を感じながらやることではないと思うし...）。  
重点プロジェクトは今年度、実行していこうというものだから、必ず責任が発生する。実行できないなら参加しない（シールを貼らない）というほうがいい。今年度はプロジェクトにせず、アイデアにとどめておいたほうがいい。  
どこまで進むかわからないが、無理に 100%を目指さず、進めるところまで進めば良いのでは。
- ・分科会方式かプロジェクト方式かの二者択一なのか？ プロジェクトに決まったら、分科会での活動はまったくなくなるのか？  
事務局で考えていたのは、通常はプロジェクト単位で活動し、全体会ではテーマ毎に集まる  
というもの。新しい人が入りやすいよう、分科会はいったん解散させるつもりだった。それに、すべての人が全体を理解していたほうがよい。  
活動に広がりを持たせ、プロジェクトを実施していくためには、新たなメンバーを増やす必要  
がある（これは、発足当時、市民の皆さんが望んだことでもある）。そのためには、新しいメンバーが参加しやすい環境をつくるのが大切。その方法としてプロジェクト方式を提案したので、この問題が解決するなら他の方法でもいい。
- ・テーマで選ぶのではなく、活動できる日でグループ化するのはどうか？（プロジェクト方式）
- ・折衷案のメリットを聞きたい。  
双方の方式のデメリットを克服できる。また、計画が出来上がってから、プロジェクトを一過性のものに終わらせないように事務局的な役割を持った組織が必要。  
それは、事務局的な役割を全体会が持つか分科会が持つかの違いでは？
- ・すぐ実行できるプロジェクトと、実行するのに時間がかかるイメージ的なものがある。時間をかけて取り組むためにも分科会があったほうがいいのかと....。
- ・今後プロジェクトが進んでいく時、原点に戻って方向性を確認するために、分科会は残しておいてほしい。

- ・シール貼りをしてプロジェクトを取捨選択してから、どちらの方式にするか決めたかった。